

消火栓ってなんだろう？



川崎市消防局 宮前消防署

消火栓ってなんだろう？

みなさんは、通学するとき、遊んでいるとき、お買い物をしているとき

道でこんなものを見たことはありませんか？



こんなものや・・・



こんなもの・・・



こんなものも

マンホールとは少しちがう。これはいったい何でしょうか？

よく見ると、川崎市のマークが書いてある。



よく見ると、つつじの花と、つばきの花も書いてある。



市民の花 つつじ



市民の木 つばき

よく見ると、「消火栓」って書いてある。

読み方は「しょうかせん」

「消」は消す。「火」はもえる火。

「栓」は穴や器の口などをふさぐもの。あけたり、しめたりするもの。

火を消すふた？なんでしょうか

火を消すしごとで使うもの？

せいかいは

「しょうかせん」は、火事のために「消防士」が使うものです。



火事がおきたとき、



消防士たちは消防車に乗って



いろんな道具をつかって活動（かつどう）します。



けれど、「水」がないと火を消せません。



そこで、火事の際に使うのが「消火栓（しょうかせん）」です。

町のなかにある消火栓（しょうかせん）は、100から200メートルごとにあります。

そうすることで、火事がどこでおこっても、すぐに水を出せるようになっています。

みんなも町を歩いている時に探してみてください。

消火栓（しょうかせん）は町のなかのあちらこちらにあるでしょう。

探してみるときに、見つけるのがむずかしいと火事の際に困ります。

なかにはこんな消火栓（しょうかせん）もあります。



どこにあるかわかりますか？



火事が夜におこったら？雪の日だったら？
探すのが大変です。

そこで、目印（めじるし）として「消火栓標識（しょうかせんひょうしき）」
か「焼付表示（やきつけひょうじ）」というものがしてあります。



消火栓標識

焼付表示



探すのが簡単（かんたん）になりますね。

そして、この標識（ひょうしき）には目印（めじるし）の他に
「駐車禁止（ちゅうしゃきんし）」のルールもあります。

消火栓（しょうかせん）の上や、近くに車をとめてはいけないルールになっています。
水が出せなくなるので、そばに物を置くのもやめてくださいね！

ルールがあっても消火栓（しょうかせん）は、みまわりをしないとけません。



はっぱにかくれていたり



みつけにくい所にあたり

消防士にとっては消火栓（しょうかせん）のみまわりも大切なお仕事です。
どこにあるのか、きちんと使えるようになってきているのかをみまわります。

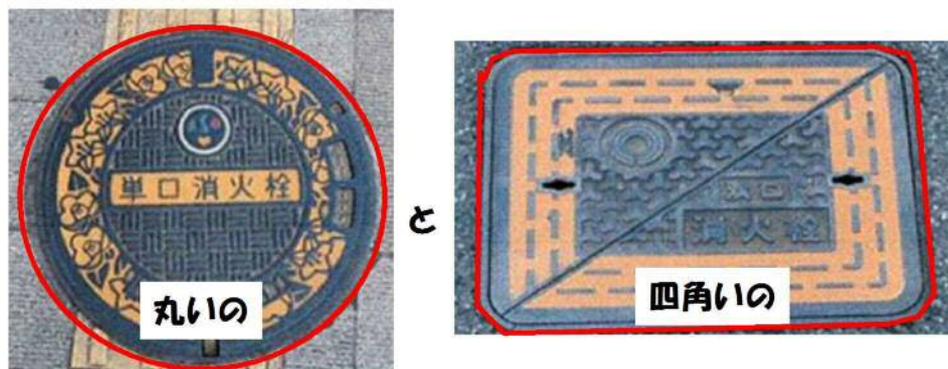


こんな姿（すがた）の消防士を町で見かけたらみまわり中です。
声をかけてみてください！

それでは消火栓（しょうかせん）を写真で見てください。
どうなっているのでしょうか？

まずは「消火栓（しょうかせん）のフタ」

大きくわけて「二つ」あります。



なにがちがうのかというと、四角いのは古いもの。丸いのは新しいもの。
フタを開けると50センチくらいの深さの穴があいています。
フタが丸いと、どんな風においても穴に落ちないんです。

このフタを開けるのにつかうのが



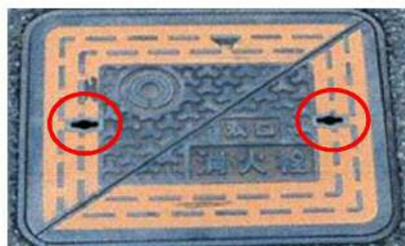
消火栓開閉器具（しょうかせんかいへいきぐ）です。

「おおぼこ」なんて名前と呼ばれています。

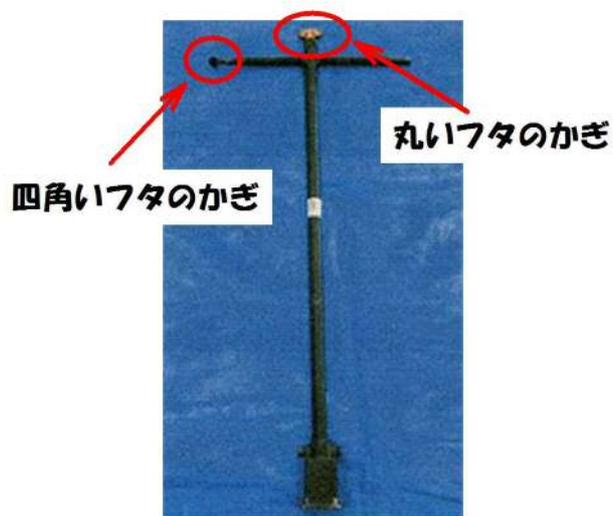
「おおぼこ」は消火栓（しょうかせん）のフタを開けたり、水を出すために使います。

じゅんばんに説明していきますね。

消火栓のフタには、丸いフタにも、四角いフタにも、小さなかぎ穴があいています。



ここで「おおぼこ」のでぼんです。



～丸いフタ～



～四角いフタ～



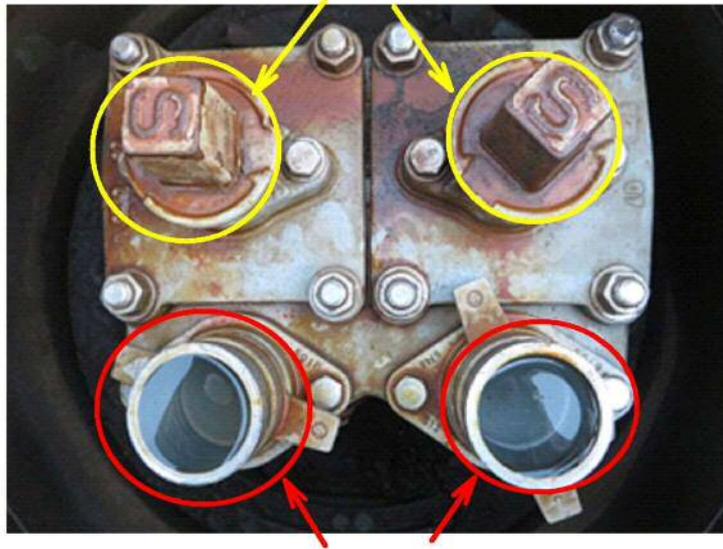
では、フタの中を見てみましょう。



フタをあけるとこういう物があります。どうやって使うのでしょうか。
ここでも「おおぼこ」を使います。



ここに「おおぼこ」をさします。



ここから水が出ます。



こうやってさします。

あとは



ハンドルを左にまわすと
水が出るよ!

みんなも知っている、水道のじゃぐちと同じです。



「消火栓（しょうかせん）」は、火事を消すための大きな水道のようになるのです。
これで、消火栓（しょうかせん）が何かはわかりましたか？

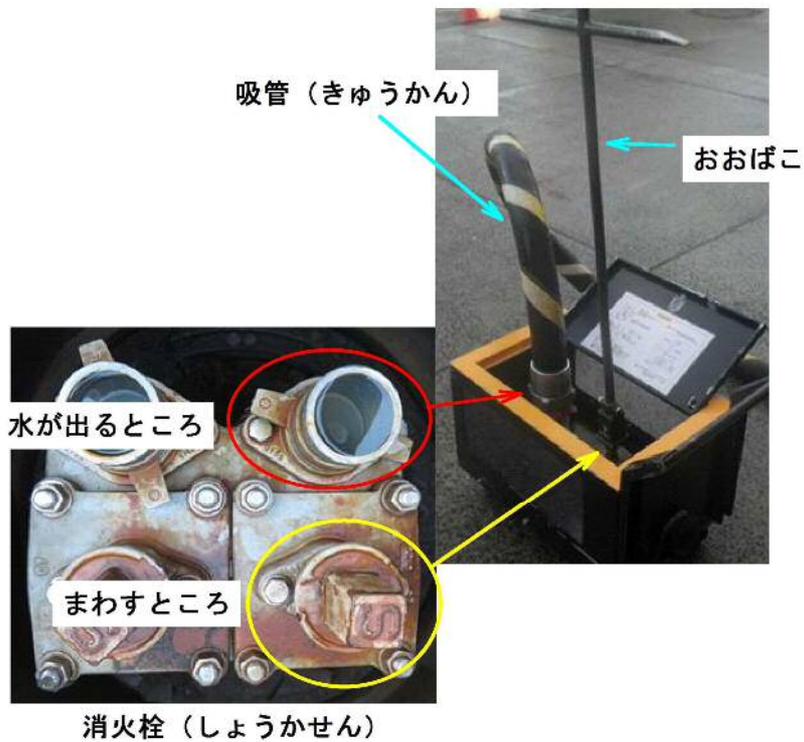
消火栓（しょうかせん）から火事の場所までは、
消防車のポンプで水に力をあたえて、
ホースを使って水を送ります。



消防車についている吸管（きゅうかん）というものを使います。



吸管（きゅうかん）を消火栓（しょうかせん）の水が出る場所につけます。



おおぼこは、まわす場所につけます。



**消火栓 (しょうかせん) から出た水は、
吸管 (きゅうかん) をとおってポンプ車に送られます。**



**ポンプ車で水にいきおいをつけて、
ポンプ車から火事の場所まではホースをのぼして水を送ります。**



**水道のじゃぐちにホースをつなげて水を出したことはありますか？
あれと同じような感じですね。**

この消火栓（しょうかせん）を、みんなも使うときがくるかもしれません。

それは、

大きな地震（じしん）がおきたとき。

大きな地震（じしん）がおきたら、

火事がいろんなところでおきるかもしれません。

消防車が道をとおれなくなるかもしれません。

そうすると、火事がおきていてもすぐに消防車はこられません。



そんなときのために、みんなの小学校などの避難所（ひなんじょ）には「消火（しょうか）ホースキット」というものがあります。

それをつかって、消火栓（しょうかせん）から水を出して、

『町のみんなで、自分たちの町を守る』ときがくるかもしれません。

みんなも遊んでいるときなどに、

どこに消火栓（しょうかせん）があるのかをさがしてみてください。

川崎市内には約20,000基、宮前区には約3,000基もあるんです！

いざというとき、みんなの知識（ちしき）が町を守るかもしれませんよ。